



●わが社のCSR活動

CSR

TTKグループのCSR活動

株式会社TTK



1. はじめに

私たちTTKグループは、1955年2月の創業以来半世紀以上にわたって、東北地方を中心に情報通信設備の構築に携わってまいりました。

2020年度は「TTKグループ第5次中期拡大経営計画」（2020年度～2021年度）の1年目として、震災復興事業への取組みを継続するとともに、既存のエンジニアリング事業におけるさらなる生産性向上と業務の効率化による売上と利益の最大化に努めます。また、成長戦略と位置づけている新たなコア事業「電気工事の受注拡大、環境土木工事の受注拡大、光コラボ関連事業の拡大」も引き続き推進することにより、事業領域の拡大に向け積極的に取り組んでいます。

今後も、安全と品質を最優先し、情報通信インフラの構築を通じて社会に貢献するとともに、一層の企業価値の向上に努めてまいります。

2. 経営理念とCSRの考え方

当社グループは、2018年10月に株式会社ミライト・ホールディングスと経営統合しました。ミライトグループの一員として、今後の持続的な成長・発展に向けて経営基盤を強化し、統合シナジーによる売上の拡大とグループ経営の効率化に取り

組んでいます。

我々はミライトグループおよびTTKグループの基本理念や行動指針（写真1）をもとに、事業活動に取り組んでいます。

次項から、TTKグループの具体的な取組みについてご紹介します。

3. 働きやすい職場環境を目指す取組み

当社を取り巻く環境の変化に加え、昨今の労働関連法案の改正や、ダイバーシティ・ワークライフバランス充実なども踏まえ、「働く」ことへの価値観がより多様に変化していると言えます。当社としても「多様な価値観の醸成、人材育成、安全と品質」の3つは事業活動の根幹と捉え、社員1人ひとりがこの考えを大切にす文化を改めて根付かせていく必要があると認識しています。2019年度は、いわゆる働き方改革に対して本格的な取組みをス

タートした年でした。

第1ステップとして、現状把握を中心にいくつかの取組みを実施しましたので、以下に一例をご紹介します。

(1) 経営陣による働き方改革宣言

社長宣言（写真2）を始めとして、各組織長（子会社社長）がそれぞれの働き方改革への思いと職場単位での目標・取組みポイントを記載した「働き方改革宣言書」を交付しました。内容はイントラネットおよび事務室内に掲示し、社員が普段から宣言内容を意識して行動できるようにしています。社員は組織長の宣言内容を踏まえて、1人ひとりの働

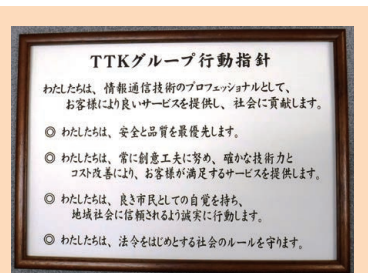


写真1 TTKグループ行動指針

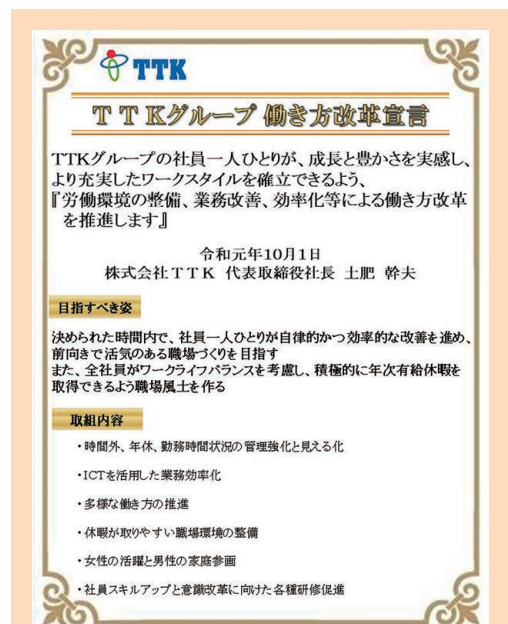


写真2 TTKグループ働き方改革宣言

き方改革の取組みを実行していくこととします。

(2) 全社員アンケート実施

前述の働き方改革宣言書交付後、TTKグループの全社員約1,500人（契約社員含む）を対象に働き方改革アンケートを実施しました。法令改正を含む働き方改革の認知度や、各職場単位での業務効率化への取組み内容、現在課題と感じていること等、社員の生の声を把握しました。結果は統計的に分析し、今後、会社としての取組みに活用するとともに、今秋も第2回アンケートを実施する予定です。約1年経過して職場環境や働き方改革の取組みがどこまで浸透しているか、より良い方向に進んでいるか等、再度現状分析を行います。

(3) 若手社員による働き方改革ワーキング活動

経営陣の宣言書に基づくトップアプローチに対して、若手社員から捉えた目線も重要と位置づけ、「働き方改革若手社員ワーキング」を昨秋に立ち上げました（写真3）。メンバーは各組織から募り、12名が参画し、テーマは「業務標準化、働きがい向上、時間外削減・年休取得促進」とワークライフバランスの充実や自分たちの日々の業務に近い事項を設定し、会社と働く従業員が互いにメリットがあるような施策や、自分たちの目指す10年後の姿を組織の枠を越えて数カ月に渡り議論・

検討しました。実際の業務担当者目線での提案等は大変貴重であり、ワーキング・グループ（WG）の活動は最終的には、経営層への提起という形で総括しました。今後、若手WGの提起も参考に会社としての取組みに活かしていきます。

以上の取組みから、さまざまな意見が提起され、全社的に現状把握と課題の共有を行ってきました。1人ひとりの働くことに対するモチベーション・姿勢は事業活動と密接に連動します。2020年度の事業計画目標の達成・さらなる生産性向上と並行して、働き方改革関連の取組みについても2020年度の重点施策として取り組んでいきます。

4. 人材育成

技術者の確保と人材育成は第5次中期経営計画重点項目にも掲げてきた当社グループの重要な経営課題です。当社グループは社内研修施設として、「エキスパートセンタ（仙台市青葉区）」を整備しています。

従来の新入社員研修や各種競技会等の強化訓練に加え、事業活動のニーズに即した研修カリキュラムを策定し、現場第一線で活躍できる即戦力人材を育成しています。

受講者は社員だけではなく、現場第一線で活躍している協力会社の方まで対象を拡げて運用しています。講師は当社グループ従業員が基本ですが、時には協力会社の方が務める

こともあり、より実践に近い研修内容を追求しています。

技術面だけでなく、ヒューマンスキルの向上のためのカリキュラムも順次拡大していく方針です。エキスパートセンタのリソースをフル活用して、当社グループの人材育成・技術者確保をさらに強化し、事業発展に挑戦していきます。

5. 安全の取組み

当社の安全の取組みについて、特徴的な「安全の番人」と「安全施工心得」の2点に絞って今回紹介いたします。

(1) 「安全の番人」による安全文化の再構築

「安全の番人」誕生は2012年10月で、当時事象が多発していたことから、安全文化再構築の礎を築く活動の1つとして、元請の業務遂行状況や協力会社による安全作業状況をパトロールにより調査・指導（写真4・5）を行うことを基本とし、社長特命事項、各事業本部長等からの緊急的要請に応じることをミッションとしてスタートしました。「安全の番人」は中立公正な立場で業務を行い、本社所属の立場としての権限を有しています。毎日の活動状況として現場で起きている生の実態が社長に旬報として報告され、社長がコメントを記載したうえで、社内で共有しています。制度当初から3人体制でメンバーを入れ替えつつ維持し、



写真3 若手WGの模様



写真4 作業班との対話状況
左から二人目が安全の番人



写真5 支店幹部との意見交換状況
右側三名が安全の番人

東北6県を活動エリアとして元請け・協力会社の指導に現在も日々奔走しています。

各事業本部・支店所属で安全パトロール等を行う安全専任者とは違った立場でパトロールを行うことで、現場にピリッとした緊張感をもたらす安全意識の高まり、作業班全体のレベル底上げにつながっています。

「安全の番人」は強い責任感と事故を起こさない・起こさせない思いを持って活動していることで、不備事項があれば、優しくも厳しい愛のムチを放ち、会社や作業班を守るために最善の方法で是正やアクションを起こし、現場を正常な状態に戻す営みを行っています。

「安全の番人」が誕生して約7年半、当社安全文化の構築に多大な影響をもたらせました。今後も現場に寄りそいながら、これまで積み上げてきた安全文化を守るため、愚直に活動を継続していきます。

(2) 「安全施工心得」がみんなの道しるべ

「安全施工心得」は事故を未然に防止するため、作業手順を遵守して作業を進めるにあたり、従事する者が守らなければならない事項やルールをまとめたもので、胸ポケットに入る小冊子として2002年に制定され、これまで事故発生に伴う項目の追加・修正、安全施工サイクルの項

目追記や撥水性の高い紙の使用、インデックスを付ける等、使いやすさにも工夫をこらし4回の改訂を行い現在に至っています。また、モバイル系業務従事者は「安全施工心得モバイル編」として2010年に制定、昨年の9月に2回目の改訂を行い、最新の情報を網羅して現場で日々活用しています（写真6）。

「安全施工心得」は、現場で働く元請け、子会社、協力会社の全員が所持していることに大きな価値があり、安全施工心得に書いてあることを指導する元請けとそれを守る協力会社作業班が同じ冊子をみて、共通認識の下で安全に作業を進められることに意味があります。また、NTT工事においては、作業前KY時に当日の作業で特に重視した項目を本書から選び、作業指示書に記載する、毎日の現場で活用される等、当社グループの絶対的・頼れる存在であり、みんなの道しるべとなっています。

現在、「わかりやすい・みやすい」

を意識して、5回目の改訂に向けて編集作業を進めているところで、今年の夏前にはリリース予定です。現場が本当の意味で事故防止に役立てるために、今後もみんなの道しるべとして日々の安全活動にフル活用し、事故を起こさない・起こさせない取組みに力を注いでいくこととします。

6. 地域貢献活動

当社は「地域と共に歩むTTK」をキャッチフレーズに地域に貢献できるさまざまな活動を行っています。

(1) 地域行事への参加

① 伝統文化・芸能である地域の祭りへ参加

当社は東北6県に支店がある会社です。各地域の祭りに参加し、地域の発展に貢献するとともに、地域に根差した企業を目指しています（写真7・8）。

② 仙台国際ハーフマラソン大会への協賛



写真7 宮城 仙台青葉まつり



写真6 左が通常版の安全施工心得
右がモバイル版



写真8 秋田 三吉神社梵天奉納



写真9 給水ボランティア



写真10 ルート48クリーン運動

当社は本大会へ第16回大会(2006年)より協賛を行っております。新緑の杜の都を駆け抜けるランナーとともに大会を盛り上げ、地域社会におけるスポーツの振興に貢献しています。

また、参加するランナーの皆様をより近くで支える存在でありたいという思いから、地域の方々と共に給水ボランティア活動に参加しています(写真9)。

(2) 社員による街の清掃・美化活動への参加

①地域の清掃ボランティア活動

地域社会の一員として、各地域で定期的に開催される清掃ボランティア活動に取り組み、地域の環境保全を推進していきます(写真10)。

②8のつく日の清掃活動

仙台市に拠点がある本社・中倉ビルでは、8のつく日は「町内清掃の日」と位置づけ、社員1人ひとりが率先して街の清掃を定期的に行っています。

7. コンプライアンスの取り組み

当社は「信頼される情報通信エンジニアリング会社」として、確かな技術力と創造力を生かし、21世紀の情報化社会の実現に貢献することが企業活動の基本であると考え、経営の重要な柱の1つとして法令・社内ルール順守の徹底を図っています。

(1) コンプライアンス研修の実施

TTKではグループ全従業員を対

象として年1回のコンプライアンス研修を実施することにより、1人ひとりの倫理・コンプライアンス意識を高め、不正不祥事の発生防止を図っています。

また協力会社や警備員向けの研修コンテンツも準備し、実際にあったトラブルや不当要求等を実例にあげ研修による注意喚起を行っています。

(2) 法務相談情報の発行

毎月身近な話題について発行することで、TTKグループで働くすべての方がトラブルに巻き込まれないように注意喚起を行っています。

8. おわりに

私たちは、「情報通信技術のプロフェッショナルとして、お客様によりよいサービスを提供します。」という行動指針を胸に、お客様と地域社会から信頼される企業としての取り組みを進めてきました。2018年にミライトグループの一員となりましたが、私たちが向かうべき方向に変わりはありません。これからも企業価値の向上に努めるとともに、当社グループで働く1人ひとりが、安心安全に、働き甲斐を持って、成長し続け、「TTKグループで働いて良かった。」と思えるような会社を目指して取り組んでまいります。